

都会の高齢者に安らぎを

健祥会グループ（徳島市）



特別養護老人ホームのロビーで、職員と軽い運動や五目並べをするお年寄り＝徳島市

お年寄りが笑顔で元気だ。午後3時すぎ、ロビーでは理学療法士と一緒に「おばあちゃんたちが、いすに座ったまま、細い棒を持って軽い運動をしている。ホームの職員と五目並べをしている人もいた。

東京に施設 移住の布石

誇れる地方に

地方の多くの地域で、人口減少に歯止めがかからない厳しい状況が続く。都市から新たな人の流れをいかに呼び寄せるか。そのヒントを探るため、景勝地や自然環境を生かした活性化の動きや、国産ワインの輸出、特別養護老人ホームの大都市進出といった取り組みを追った。

私たちが 主役

長(57)が話す。「日中おむつゼロ」を目指し、できるだけ自分の力でトイレに行けるようにと歩行訓練も欠かさない。入所者の移動を支える職員の負担を軽減しようと電動リフトも導入した。質の高い介護で、寝たきりにならないように心掛けています。

グループは大阪府、京都府、そして2014年12月には東京都で施設を開いた。団塊の世代はだんだん介護が必要になってくる。そうならば都市の老人ホームの不足が深刻化するのだから。一方で、地方はそれほど増えない。

施設整備が進んだ徳島では入所を待つ人の数が全国で最も少ない。「今後、高齢者が減れば経営が成り立たない。そうすれば若い介護士らが都会に出て人口減少に拍車を掛ける」。中村太一理事長(40)は心配する。

都市への進出はこれに対応する狙いがある。一つは都市の施設で雇用した人を徳島に呼び定住してもらう人材確保。もう一つが、高齢者の地方移住への布石だ。

現在の介護保険制度は、都道府県境を越えて高齢者が特養に入るとは想定していない。ただ「都市での不足を考えれば、希望する高齢者を地方の特養が受け入れる制度は必要だ。今から質の高いケアを見てもいい、都市住民から選ばれる施設になりたい」。中村理事長は次を見据える。

地方の雇用を守り、経済を維持する。このためにも、高齢者の地方への移住を考える時期に来ている。